

平成29年度研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

1. 研究の概要

プロジェクト名	文章・談話構造から見る係り結び構文の研究		
プロジェクト期間	平成29年度		
申請代表者 (所属講座等)	勝又 隆 (国語教育講座)	共同研究者 (所属講座等)	
取組方法・取組実績の概要	<p>古代日本語における確言系（ゾ・ナム・コソ）の係り結び構文について、文章構成や談話構造上の特徴を観察することで、その特徴が、これらの構文の持つどのような機能の反映であるかについて考察した。</p> <p>(1) 中古の散文作品（『竹取物語』、『宇津保物語』（巻之一）、『源氏物語』（若紫））の地の文を中心に、ゾ・ナム・コソの係り結び構文が、どのような文脈でどのような情報を示す文に用いられているのかを観察した。</p> <p>(2) 会話文についても同様の観察を行い、(1)とゾ・ナム・コソの先行研究も踏まえ、それぞれの構文における文章構成・談話構造上の役割の違いについて考察した。</p> <p>(3) 上代の歌集である『万葉集』を対象に、ソ（ゾ）による係り結び構文の承接語句と結びの述語との関係と、連体修飾節の述語と被修飾名詞との関係を比較し、他の係り結び構文の場合も踏まえ、ソ（ゾ）による係り結び構文によって「焦点化」されているように見える要素の特徴について考察した。</p>		
研究成果の概要	<p>(1) 『竹取物語』、『宇津保物語』（巻之一）、『源氏物語』（若紫）の地の文に現れるゾ・ナムは、先行研究に指摘があるように、段落や話題の切れ目に現れる例が多く、ナムが段落や場面の切れ目、ゾがより小さな話題の切れ目を作っているという傾向も確認できた。しかし、同じ段落（話題）においてナムが連続して用いられる例もしばしば見られたため、話題の切れ目という把握の仕方では不十分であることも明らかになった。</p> <p>そこで、上で、段落の切れ目と見なせる例も含めて、ゾ・ナムの係り結び構文の前後を観察し直した結果、ゾ・ナムの場合は原則として、直前の文までで言及された事物・事態に関する補足説明をする際に用いられていることがわかった。作品により、地の文におけるゾ・ナムの出現頻度は異なるが、全般的にナムの方が出現頻度が高く、ゾの方がより些末な補足情報を補う場合に用いられる傾向にあった。</p> <p>(2) (1)同様に、会話文についても調査を行った。ナムが対人的な働きかけの機能を持つことは先行研究にも指摘があるが、応答文に注目したところ、質問に答える場合には、ナムが内容的にも直接の答えを担い、ゾはその補足説明として現れ、コソは質問者の意図と離れて話し手が主張したいことを述べる際に現れる傾向にあることがわかった。これは(1)とも矛盾しない結果であり、共通する機能の反映と考えられる。</p> <p>(3) 『万葉集』におけるソ（ゾ）による係り結び構文の、「ソの直上に現れる語句と結びの用言」の文法的関係と、連体修飾節（巻15～17）の「被修飾名詞と連体修飾節の述語」の文法的関係について、その出現傾向が類似していることを示した。この類似は他の係り結び構文には見られないことから、ソ（ゾ）の機能について、今後、連体節にも注目する必要がある。</p> <p>今後は調査範囲を広げつつ、(3)と(1)(2)とを体系的に捉えることを想定している。</p>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について〔 <input type="checkbox"/> （該当事項）にチェック方願います。〕			
外部資金獲得申請（予定）	<input checked="" type="checkbox"/> 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input type="checkbox"/> その他 ( )	研究成果の公表方法（予定）	<input checked="" type="checkbox"/> 学会（ <u>国内</u> ・国外）：（予定） <input checked="" type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等：（予定） <input checked="" type="checkbox"/> その他：(3)は研究会にて口頭発表